

新潟工科専門学校 シラバス (授業計画書)

科目名	架構実習Ⅱ				
担当教員	大井 淳		実務授業の有無	○	
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数		時間数	96時間
授業概要、目的、授業の進め方	建築大工の技術者として基本となるな道具の知識・使用法、管理を学び、在来軸工法の基礎的な技術を実習を通して学ぶ 1. 説明→作業実習→添削と評価→修正を繰り返し行い基礎技術を身につける。 2. 加工、工法に応じた道具と、手順を理解し修練する。また習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 3. 刃物など、注意が必要な道具を用いた授業のため、安全管理に留意する。 4. 後半では、公共施設等の設備を制作し、実践的な校外実習も行う。				
学習目標 (到達目標)	建築工法が多様化している昨今、長い歴史と根強い人気を持つ在来軸組工法の基礎的な諸作業を行う実習を通して建築大工の心構えや知識、技能の基礎を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	①大工技術を学ぶ！				
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	火打梁作成 ①直角の2材間に45度の斜材(火打梁)の取り付け		方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。教科書等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～④の作業ができています。 準備学習：教科書で作業手順を予習		
2	継手作成 ①1年次の復習：腰掛鎌継ぎ・蟻継ぎの作成		方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。教科書等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～④の作業ができています。 準備学習：教科書で作業手順を予習		
3	住宅の階段の作成 ①目的や加工手順の体験 ②住宅の階段の作成(チーム作業)		方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。教科書等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～②の一連の作業ができています。 準備学習：教科書で作業手順を予習		
4	屋外実習作業 ①動物ふれあいセンターのヤギの遊び場所 ・床デッキ貼り替え ・新規パーゴラの設置		方法：授業に際しての注意、留意事項の説明。教科書等の教材と実習室の工具 材料を使って、実習課題の進めかたの説明 達成目標：健康、安全管理ができており、①～②の一連の作業ができています。 準備学習：教科書で作業手順を予習		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
各テーマ毎に出来上がりを目視し、墨付け、加工の正確さを説明、評価する。 墨付け、加工の正確さ100% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			前期の後半では、校外実習も実践として行うため、確実に習得できるよう毎日の目標を設定し授業に取り組ませる。 知識と同時に技術を伴う内容のため、機能や管理方法を十分理解したうえで、道具等の安全な取り扱いに留意し繰り返し、積極的に実習に取り組み技術の習得を目指す。		
実務経験教員の経歴	建築大工として27年実務に携わる				